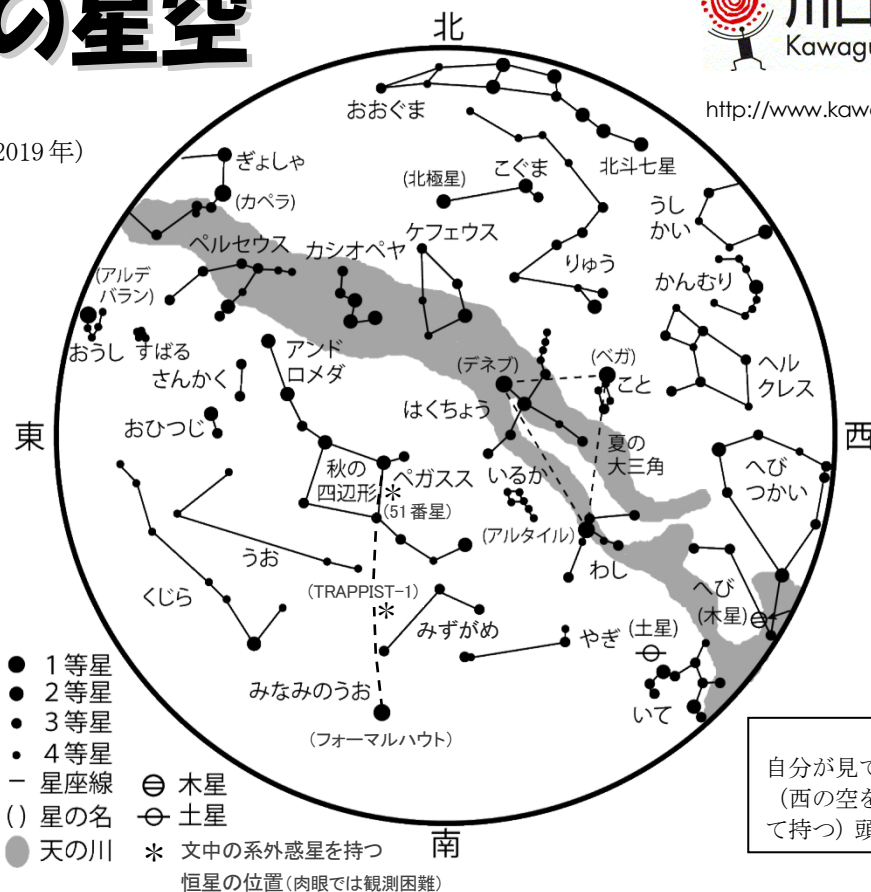


今月の星空



10月 (2019年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



月 齢 ● 上弦 6 日、○ 満月 14 日、◐ 下弦 21 日、● 新月 28 日

惑星情報 木星 夜のはじめ頃 南西 (へびつかい座 -2 等級)
土星 夜のはじめ頃 南西 (いて座 0→1 等級)

★秋の四辺形からたどる星座たち

秋の夜空の目印となる秋の四辺形が南の空に昇ってきました。この四角形を利用して、街中でも見える星座をたどってみましょう。星図のように秋の四辺形の西側の一边を南の低い所に伸ばすと、秋の星座では唯一の 1 等星のフォーマルハウトが見つかります。その他、秋の四辺形の北側の一边から北東に星が並ぶアンドロメダ座やその近くに“w”の星の並びのカシオペア座があります。

★10月11日 十三夜

日本には、「中秋の名月」(旧暦 8 月 15 日) から約 1 か月後の旧暦 9 月 13 日「十三夜」にもお月見をする風習があります。今年の十三夜は 10 月 11 日 (金) です。中秋の名月がほぼ満月であるのに対して、十三夜はその 2 日前の欠けた月となります。望遠鏡で欠け際付近を観察すれば、クレーター凹凸の様子もよくわかります。

※科学館では 11 日 (金) に、特別観測会「後の名月～十三夜～」を開催します。

★秋の星空にひそむ系外惑星

秋の星座の領域には、近年注目されている系外惑星^(注1)を持つ恒星があります。系外惑星は、一般に、主星である恒星に比べ、小さく暗いため、直接観測することが難しい天体です。観測には、恒星の前を惑星が通過するときにかかる明るさの変化から間接的に惑星を検出するトランジット法などが用いられます。現在では 4,000 以上の系外惑星が報告されています。(注1) 太陽以外の恒星を公転する惑星のこと。

系外惑星名称	特徴
ペガサス座 51 番星 b	1995 年に太陽以外の恒星で初めて発見された系外惑星。木星のような巨大ガス惑星であり、主星からわずか 750 万 km の距離を 4.2 日の周期で公転している。
フォーマルハウト b	2008 年、ハッブル宇宙望遠鏡により初めて可視光で直接発見された系外惑星。
TRAPPIST-1 系 b, c, d, e, f, g, h	赤色矮星「TRAPPIST-1」を公転する 7 つの惑星。全てが地球に近い大きさで、そのうち 3 つがハビタブルゾーン (水が液体で存在できる領域) にある。

※科学館では系外惑星について詳しく解説したプラネタリウム秋番組「アナザー・アース」を投影中です。